国語4　古典を読む（「竹取物語」）

4

石井さんは、国語の時間に、「竹取物語」を読みました。そのあと、学校図書館で、現代語で書かれた「竹取物語」を見付け、読み比べてみました。次は、**【授業で読んだ「竹取物語」の一部】**の**〈原文〉**とその**〈現代語訳〉**、**【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】**です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【授業で読んだ「竹取物語」の一部】

〈原文〉

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

〈現代語訳〉

今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前を、さぬきのみやつこといった。その竹の中に、根もとの光る竹が一本あった。不思議に思って、近寄って見ると、筒の中が光っている。それを見ると、三寸ほどの人が、とてもかわいらしい様子で座っている。

【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】

〈星新一『竹取物語』による。〉

〈星新一『竹取物語』による。〉

一　**〈原文〉**の――線部「いひける」を**現代仮名遣い**に直し、全て**ひらがな**で書きなさい。

二　**〈原文〉**の～～線部「いと」に対応する言葉を、**〈現代語訳〉**と**【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】**からそれぞれ**抜き出し**なさい。

三　**【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】**は、古典の作品である「竹取物語」に、作家の星新一が工夫を加えて現代語で書いたものです。どこがどのように工夫されていると考えられますか。**【授業で読んだ「竹取物語」の一部】**や**【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】**の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

※　左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

出題の趣旨

古典の原文と古典に解釈を加えて現代語で書いた作品とを読み比べる場面において、次のことができるかどうかをみる。

- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと
- 古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えること
- 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること

〔知識及び技能〕の「⑶我が国の言語文化に関する事項」に位置付けられている「伝統的な言語文化」の指導に当たっては、小学校での学習を踏まえ、中学校においても引き続き親しむことを重視し、その表現を味わったり、自らの表現に生かしたりすることができるようにすることが大切である。

生徒が古典に親しみをもてるようにするには、取り上げる指導事項に応じて、どのように古典の教材を活用して授業を行うのかを考えることが重要である。古典の指導は原文でなければ行えないというものではない。古文や漢文特有のリズムを味わったり文語のきまりを知ったりする際には、古典の原文を教材とし、古典の文章の内容を概括したり古典の文章に関する様々な事柄に触れたりする際には、分かりやすい現代語訳や古典について解説した文章などを教材に加えるなど、指導する内容や生徒の実態に応じて教材を工夫することが必要である。

本問では、授業で読んだ「竹取物語」と、現代の作家が解釈を加えて現代語で書いた「竹取物語」とを読み比べる場面を設定した。身に付けている知識を生かして、歴史的仮名遣いで書かれている原文を読んだり、原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えたりするとともに、現代の作家が解釈を加えて書いた「竹取物語」の工夫されている点を叙述に基づいて考えることを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第１学年〕　思考力、判断力、表現力等　C　読むこと

イ　小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。

〔第２学年〕　思考力、判断力、表現力等　C　読むこと

イ　詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

(参考)

〔第３学年〕　思考力、判断力、表現力等　C　読むこと

イ　詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

設問一

趣旨

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第１学年〕　知識及び技能

⑶　我が国の言語文化に関する事項

ア　音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。　《伝統的な言語文化》

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
4	一	1	「いいける」と解答しているもの	82.5	◎
		99	上記以外の解答	14.0	
		0	無解答	3.5	

２．分析結果と課題

○　解答類型99について、「いった」や「いう者がいた」などという誤答が多く見られた。このように解答した生徒は、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことに課題がある。歴史的仮名遣い、現代仮名遣い、現代語訳などの古典の学習で用いる言葉が具体的に何を表しているのかを十分に理解しておらず、現代仮名遣いに直すことと、現代語にすることとを混同しているものとも考えられる。

３．学習指導に当たって

音読に必要な文語のきまりについて理解する

古典の世界に親しむためには、古典の文章を繰り返し音読して、その独特のリズムに生徒自らが気付くことが重要である。その際、小学校での学習を踏まえるとともに、歴史的仮名遣いなど現代の口語とは異なる古文特有のきまりについて、教材に即して指導することが大切である。

例えば、小学校で学習した古典を取り上げ、その原文を音読しながら、歴史的仮名遣いで書かれている言葉を確認するなど、音読することによって、現代の口語との違いに気付くことができるように指導することが効果的である。また、歴史的仮名遣いで書かれている言葉をどのように読むのかを確認し、その規則性について整理しながら確認するなど、文語のきまりを文章の具体的な表現と結び付けて理解できるよう指導することが大切である。

設問二

趣旨

古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第２学年〕　知識及び技能

⑶　我が国の言語文化に関する事項

イ　現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。　《伝統的な言語文化》

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
4	二	1	**〈現代語訳〉**の欄に「とても」、**【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】**の欄に「まことに」と解答しているもの	74.4	◎
		2	**〈現代語訳〉**の欄に「とても」と解答し、**【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】**の欄に「まことに」と解答していないもの	11.0	
		3	**【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】**の欄に「まことに」と解答し、**〈現代語訳〉**の欄に「とても」と解答していないもの	1.1	
		99	上記以外の解答	8.9	
		0	無解答	4.7	

２．分析結果と課題

○　解答類型２、３の反応率の合計は12.1％である。このように解答した生徒は、**〈原文〉**と**〈現代語訳〉**、**【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】**とを対応させて内容を捉えることに課題がある。

解答類型２の生徒は、「いと」という古語に対する現代語が「とても」であることは理解しているが、「まことに」という言葉になじみがなく、「いと」と対応していることを捉えることができなかったものと考えられる。

３．学習指導に当たって

古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉える

古典に表れたものの見方や考え方を知るためには、作品に描かれている情景や登場人物の心情などが想像できるように指導することが重要である。その際、古典の易しい現代語訳や語注、古典について解説した文章などを手掛かりにして内容を捉えることができるようにすることが大切である。指導に当たっては、第２学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｃ読むこと」の(1)「イ　目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。」や(2)「イ　詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。」などとの関連を図ることが効果的である。

例えば、古典を読み、作品に表れているものの見方や考え方について考えたことを伝え合う学習活動などが考えられる。その際、古典の易しい現代語訳や映像メディアなどを教材として取り上げることで、登場人物の言動や心情などについて自分が想像したことを、古典の原文や現代語訳の言葉を用いて説明できるように指導することが大切である。また、古典の原文の中の言葉が、現代語訳ではどのように表現されているかを確かめたり、語感を比較したりすることも、古典に対する興味・関心を喚起することにつながる。

設問三

趣旨

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第１学年〕　思考力、判断力、表現力等　C　読むこと

エ　文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

《精査・解釈》

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
4	三	（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ①　**【授業で読んだ「竹取物語」の一部】**や**【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】**の表現を取り上げて書いている。 ②　①について、どのように工夫されていると考えられるかを書いている。 （正答例） ・　「よろづのこと」を「笠、竿、笊、籠、筆、箱、筒、箸。」というように具体的に書いて、翁が竹でどのようなものを作っていたのかが分かるようにしている。 ・　「手なれた仕事だ。」と付け加えることで、竹を割る翁の様子を読者が想像できるようにしている。			
		1	条件①、②を満たして解答しているもの	50.5	◎
		2	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	7.4	
		3	条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	16.4	
		99	上記以外の解答	5.4	
		0	無解答	20.3	

２．分析結果と課題

○　解答類型２について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）
・　「竹取の翁」を「竹取りじいさん」と表現している。

・　「よろづのこと」を「笠、竿、笊、籠、筆、箱、筒、箸。」と書いている。

このように解答した生徒は、**【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】**のどこが工夫されているのかを考え、**【授業で読んだ「竹取物語」の一部】**や**【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】**から表現を取り上げて書くことはできているが、その表現が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上でどのように働いているかを考えることができていないものと考えられる。

○　解答類型３について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）
- 学校図書館で見付けた「竹取物語」の方が、物語らしく面白くなっている。
- 普通の現代語訳よりも分かりやすく書かれているところが工夫だと思う。

このように解答した生徒は、文章の中の具体的な表現に着目することに課題があるものと考えられる。**【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】**について、自分が感じたよさや工夫されていると考えたことなどを書くことはできているが、その根拠を明確にすることができていない。

３．学習指導に当たって

「読むこと」を通して古典の楽しみ方を理解する

生徒が古典との距離を縮め、古典の世界に親しむためには、古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げ、生徒自身が古典の楽しみ方を見いだすことができるよう指導することが大切である。

例えば、教科書に掲載されている現代語訳だけでなく、中学生などが楽しめるような現代語訳などを取り上げ、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考える学習活動などが考えられる。その際、古典の原文と比較したり関係付けたりすることで、古典の原文やその作品の世界に生徒の興味・関心が向かうよう指導することが大切である。具体的な授業のアイディアの一例を次に示す。

また、授業アイディア例の他にも、第１学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｃ読むこと」の(2)に示されているような「ウ　学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動。」などとの関連を図り、生徒自身が、教科書に掲載されている古典作品をさらに楽しむための本を手に取り、紹介し合う学習活動なども考えられる。

授業アイディア例　「読むこと」を通して古典の楽しみ方を理解する
～「現代語訳」を活用して、古典作品を楽しむ～

【本アイディア例と関連する問題及び学習指導要領における内容】

設問三　正答率　50.5％

〔第１学年〕知識及び技能　⑶

ア　音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。

〔第１学年〕思考力、判断力、表現力等　C

エ　文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

教　材

- 星新一『竹取物語』（令和５年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語 4）、学校図書館にある分かりやすい現代語訳の「竹取物語」
- 教科書に掲載されている「竹取物語」

学習の流れ

第１時

❶　学習の見通しをもつ。

教 師

古典の中には、絵本や映画などで幅広い世代に親しまれている作品がたくさんあります。その一つである、「竹取物語」を読んでみましょう。まず、「竹取物語」について、皆さんが知っていることを基に、どのような作品なのかを確認しましょう。

❷　グループで、「竹取物語」について知っていることを出し合い、出された知識をホワイトボードに整理する。

❸　グループごとにまとめたホワイトボードを基に、「竹取物語」の作品の特徴（成立時代、作品の種類、あらすじ等）を全体で確認する。

❹　教科書に掲載されている「竹取物語」の冒頭の部分の原文と現代語訳を音読し、古文の特徴を捉える。

小学校で学習したことを思い出しながら、「竹取物語」の冒頭の部分の原文と現代語訳を音読しましょう。そして、思い出したことや気付いたことについて交流しましょう。

〔生徒の発言の例〕

原文には、「いふもの」のように、書いてあるとおりには読まないところがあるので、注意して読まなければなりませんね。文末も「けり」や「たり」など、現代語訳とは違っています。

小学校で古典の学習をしたとき、現代とは違う「昔の仮名遣い」が出てきたことを思い出しました。現代語訳の「不思議に思って」が原文では「あやしがりて」になっているように、現代語とは違う意味で使われていた言葉もあるようですね。

「いとうつくしうてゐたり」は、現代仮名遣いにすると、「いとうつくしゅうていたり」になるのですね。「うつくしうて」が「かわいらしい様子で」になるならば、現代語の「美しい」は、昔は何と言ったのでしょうか。

❺　「歴史的仮名遣い」などの知識を確認し、もう一度、原文を音読する。

ポイント

小学校での学習を想起させながら、「歴史的仮名遣い」や「現代仮名遣い」、「現代語訳」などの言葉を使って、自分が気付いたことや理解したことを説明できるようにしていくことが大切である。

第２時

❻　教科書の「竹取物語」の冒頭の原文と現代語訳を音読し、前時の学習を振り返る。

古典の楽しみ方として、現代語訳を読むことや、映画や漫画を手掛かりにすることも考えられます。今日は、「竹取物語」の冒頭の部分を、星新一さんが現代語で書いた「竹取物語」で読んでみます。面白く感じたことや工夫されていると考えたことについて、交流してみましょう。

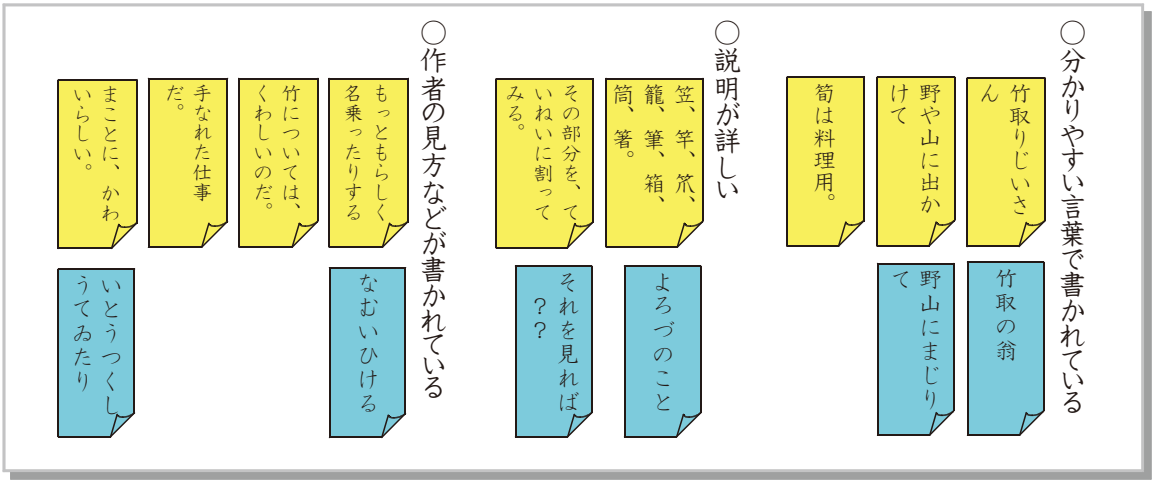
❼　各自で、星新一訳「竹取物語」（以下、星新一訳）の冒頭に当たる部分を読み、面白さや工夫されている点についてグループで交流する。

❽　❼で交流した面白さや工夫されている点を具体的に取り上げて黄色の付箋に書き、古典の原文の対応する部分を探し、青色の付箋に書く。

❾　グループで、❽で書いた付箋を整理しながら、気付いたことについて交流する。

※　❽、❾について、ICT 機器のホワイトボード機能を活用して学習することも考えられる。

〔グループでの交流の例〕



星新一訳では、「まじりて」を「出かけて」にするなど、教科書の現代語訳よりも、私たちが普段使っている言葉に近い言葉を使っていますね。だから、分かりやすく感じるのですね。

星新一訳には、「よろづのこと」を「笠、竿、笊、籠、筆、箱、筒、箸。」と書くなど、古典の言葉を詳しく書き換えているところがあります。笊も籠も竹で作るなんて、さすが「竹取の翁」と呼ばれるだけのことはあると思いました。「すだれ、ふるい、かんざし」も漢字で書くと、「竹カンムリ」なのですね。どのような漢字なのか調べてみたくなりました。

原文にはない「手なれた仕事だ。」の一文があることで、翁の手つきが目に浮かびますね。「その部分を、ていねいに割ってみる。」も原文には書かれていないことではないでしょうか。原文の「それを見れば」の前に翁がしたことを補って書いているのだと思います。

教科書の現代語訳の「とてもかわいらしい様子で座っている」でも、「三寸ばかりなる人」の様子は分かりますが、星新一訳の「まことに、かわいらしい。」だと、思わずつぶやいたような感じがして、かわいらしさが強調されていると思います。「いと」は、「まことに」と訳すこともできるのですね。

❿　❾で整理した付箋を見せ合いながら、全体で交流する。

⓫　学習を振り返る。

星新一さんは、この本の「解説」の中で、「ひとつの試みとして、私なりの現代語訳をやってみた。」「原文に忠実なようつとめたが、自分なりのくふうも加え、章の終りごとに、ほどほどの補足も書いた。また、改行もふやした。」と述べています。今日の学習を振り返り、星新一訳と原文を読み比べてみて面白いと思ったことや、さらに読んでみたいと思った場面などについて書いてみましょう。

〔生徒の発言の例〕

原文の意味が分かるだけでなく、「竹取の翁」やこの場面の様子についていろいろ想像できるのが面白いと思いました。例えば、「よろづのこと」に当たるものを「竹カンムリ」の漢字で列挙していて、翁は「竹カンムリ」のものならば何でも作れる人なのかもしれないと、想像が広がりました。前の時間にあらすじを確認したときに出てきた、五人の貴公子の求婚の場面で、それぞれの人物がどのように描かれているのか、読んでみたくなりました。

星新一訳の「竹取物語」を読んで、現代語訳の仕方が一通りではないことが分かりました。「いと」が「とても」という意味であることは知っていましたが、「まことに」の方が、この場面にはぴったりだと感じました。私は、かぐや姫が月に帰る場面を絵本でしか読んだことがないので、原文と星新一訳で読んでみたいです。

第３時

⓬　読みたい場面を選び、星新一訳の「竹取物語」と原文とを読み比べる。

※　教科書に掲載されている冒頭以外の場面や、教師が選んだ場面を取り上げることも考えられる。

第４時

⓭　読み比べてみて面白く感じたことや工夫されていると感じたことについて、感想を交流する。

【活用する際のポイント】

古典の原文に加え、古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として取り上げ、「Ｃ読むこと」と以下のように関連付けて指導することが考えられる。

○　第２学年で、「(3)我が国の言語文化に関する事項」のイの指導事項について指導する場合には、「Ｃ読むこと」の(1)イやオの指導事項との関連を図ることが考えられる。

○　第３学年で、「(3)我が国の言語文化に関する事項」のアの指導事項について指導する場合には、「Ｃ読むこと」の(1)イやエの指導事項との関連を図ることが考えられる。

※出典等

【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】は、星新一『竹取物語』(2008年７月角川文庫）による。